

令和元年度 終了評価書

研究機関 : 富士通(株)、北陸先端科学技術大学院大学、SMK(株)

研究開発課題 : IoT 共通基盤技術の確立・実証(課題Ⅱ 効率的かつ安定的な IoT デバイス接続・エリアネットワーク運用管理技術の確立)

研究開発期間 : 平成 28 年度～ 30 年度

代表研究責任者 : 高橋 英一郎

■ 総合評価(5～1の5段階評価) : 評価 3

■ 総合評価点 : 19 点

(総論)

具体的な個別の諸プロトコルとの接続や標準化活動を実施するなど、WoT や HTIP に関連する取り組みを十分に行い、研究開発目標を着実に実施している。類似技術との差別化、市場性、競争力などに関して、Amazon など既存プレイヤーとの競合にあることを十分に認識し、より深い検討を行った上で実際の普及を目指してもらいたい。

(コメント)

- WoT、HTIP などの十分なとりくみがある。
- 具体的な個別の諸プロトコルとの接続をクリアして当初の目標を達成している。
- 標準化での活動は評価できるが、実際に普及の目途をつけられると良い。
- 研究開発目標は着実に実施している。類似技術との差別化、市場性、競争力などに関して、より深い検討があると素晴らしい。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

HTIP は膨大で多様な IoT 機器の運用管理に関する重要な技術であり、妥当な目標であった。

(コメント)

- 膨大で多様な IoT 機器を運用管理するにあたって重要な技術である。
- HTIP の普及に向け、また IoT 接続規格の標準化に向け、プラグフェストを実施するなど推進した。
- 妥当である。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

技術開発と、プラグフェスト等の標準化活動について、上手に並行して実施している。

(コメント)

- 標準化と技術開発を上手に並行して行っている。
- プラグフェストを実施するなど標準化の普及に努めた。
- 妥当である。

(3) 研究開発目標(アウトプット目標)の達成状況

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

WoT の標準化、WoT デバイスゼロコンフィギュレーション技術の開発など目標を達成しており、さらに PRISM へ発展し、アプリケーションの取り込みが始まっている。

(コメント)

- WoT の標準化、WoT デバイスゼロコンフィギュレーション技術など目標を達成している。
- PRISM へ発展し、アプリケーションのとりこみがはじまっている。
- 妥当である。

(4) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価 4

(総論)

標準化に多大な労力を割き、WoT プラグフェストで多数の企業と相互接続を実践して諸プロトコルとの接続をクリアした点は評価できる。

(コメント)

- WoT プラグフェストで多数の企業と相互接続を実践するなど仲間づくりに努めている。
- Amazon などの既存プレイヤーとの競合にあることを十分に認識して欲しい。
- 標準化に多大な労力を割いて、諸プロトコルとの接続をクリアしたところが評価できる。

(5) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた計画

(5～1の5段階評価) : 評価3

(総論)

WoT 及び HTIP 対応の通信モジュールの事業化を予定しているが、国際化、市場獲得に向けたさらなる仲間作りが必要である。

(コメント)

- WoT および HTIP 対応通信モジュールの事業化を予定
- 国際化、市場獲得に向けたさらなる仲間づくりが必要。
- 次につながる計画がある。